

# 農林水産政策審議会 第4回総会 議事要旨

I 開催日時 令和5年8月4日（金）15:00～17:00

II 場 所 兵庫県土地改良会館6階会議室

## III 出席者

### 1 委員

岡田真希子 兵庫県女性農漁業士会 会長  
小田 滋晃 京都大学 名誉教授  
片山 守 育波浦漁業協同組合 代表理事組合長  
勝沼 直子 (株)神戸新聞社 論説委員長  
衣笠 智子 神戸大学大学院経済学研究科 教授  
伍々 博一 兵庫県森林組合連合会 元理事  
齋藤亜紀美 (株)池上農場 代表取締役  
清水 夏樹 丹波篠山市農都創造部 農都環境政策官  
田沼 政男 兵庫県漁業協同組合連合会 代表理事会長  
辻村 英之 京都大学大学院農学研究科 教授  
中塚 雅也 神戸大学大学院農学研究科 教授  
中山 晋吾 兵庫県農業経営士会 会長  
長谷川尚史 京都大学フィールド科学教育研究センター 准教授  
原田 俊一 ひょうご卸売市場協働ネットワーク協議会 副会長  
波々伯部正 兵庫県農協協同組合中央会 代表理事専務  
藤原 建紀 京都大学 名誉教授  
船越 照平 (一社)兵庫県食品産業協会 会長  
坊垣 昌明 兵庫県土地改良事業団体連合会 副会長理事  
皆川 芳嗣 (株)農林中金総合研究所 理事長  
八木 隆博 兵庫県農業法人協会 会長

### 2 県

萬谷農林水産部部長、呉田農林水産部次長、塩谷農林水産部次長  
ほか県農林水産部、環境部職員

#### IV 議事次第

##### 1 開会

##### 2 あいさつ

##### 3 議事

(1) 副会長の選出について

(2) 農林水産企画部会での審議について

「資料1」により説明

(3) 農林水産業を取り巻く情勢の変化を踏まえた展開方向及び答申素案について

「資料3」及び「資料4」により説明

〔 各委員から意見聴取（別紙「主な意見」参照） 〕

(4) その他

##### 4 閉会

## 主な意見

- 委員 中山間地の高齢化や農業の衰退に危機感を持っているが、資料には入りにくい。環境創造型農業に関して、資料3のP6や資料4のP33に「低コスト化に向けた化学肥料低減技術の確立」とあるが、低コスト化が目的で良いのか。有機農業等、環境に優しい農業の拡大を前面に出した方が良いのでは。
- 委員 ひょうご豊かな海づくり県民会議が発足し、兵庫県の漁業全体が前向きになるのは非常にありがたい。
- 委員 次代を担う若者や子供を対象にした記載が多いのは理解できるが、女性の参画に関する記載が少ない。多様性を打ち出すのであれば欠かせない。前回総会でも、男女協働参画に関する問題提起があったが、記載がないのであれば、検討すべき。女性の力を活かすために必要な意識改革・女性も働ける作業環境の整備等の記載を入れるよう検討を。資料4のP11「次代を担う経営力の高い担い手の育成」の「(2)課題」に入れることができるのではないかと。
- 委員 計画や枠組みは良いが、予算を含めて詳細に解決方法を考えていく必要がある。記載されている内容は全てできるならした方が良いもの。予算も限られる中で、どう優先順位をつけて対応していくかが重要ではないか。輸入等は国際的な問題点だが、兵庫県から国に提言する姿勢も必要ではないか。
- 委員 資料3 P8の展開方向(1)は、木材として需要拡大することに力点が置かれているが、工業製品や素材としての利用等、新しいニーズへの対応の記載が漏れているのではないかと。
- 委員 この答申案は様々な方と連携し農林水産業の発展や食の安全性の確保を進めていこうという内容。この内容は農林水産業だけでなくそれをとりまく方々とも共有することが必要と考える。自分も食育関係のイベントに参加する機会があるので、イベント参加者をはじめ、食品販売業者等にもこの答申案の内容を伝え、県内の食品産業を少しずつ変えていきたい。
- 委員 全ての問題点に対して隙間なく施策内容が提示されており優等生の回答だが、兵庫県でなくてもできる内容になっていないか。兵庫ならではの内容を強調していくと面白い。県民へのアピールにもなる。CSAや有機農業、フィールドパビリオン等は売りになるのではないかと。
- 委員 豊かな海づくりは兵庫県がおそらく全国で一番進んでいる。ひょうご豊かな海づくり県民会議に期待している。水産漁港課と一緒に頑張っていきたい。
- 委員 国道やほ場にシカが走り回っていたり、空き家にアライグマが巣を作っていたりと、鳥獣被害が身にしみている。
- 委員 「連携」が1つのキーワードになっていると思う。林業の観点から見直すと、林業はなかなか食とつながりにくい。林業として横のつながりは何ができるか考えたところ、中長期的な話かもしれないが、里山資源の再活用や木くずの堆肥、食育イベントに県産木材で作った食器を使うなどの横連携ができるのではないかと。
- 委員 2024年問題が迫っており、市場への集荷が難しくなる。県内に4つの大きな市

場があるが、市場間のやりとりも難しくなる。そのような中、資料にも記載されているように、地産地消が非常に重要になってくると考える。

**委員** 資料4のP7の3「多様な主体の活躍」にも記載されているように中心的経営体だけでなく、様々な関係者が農業地域において支え合うことが大事だと思う。県内農家は減少しており、中小・家族経営農家も維持していく必要がある。中山間地域では、ほ場条件的にも担い手農家に預かってもらえず、荒廃する農地が増加しており、農業を基盤とする集落では中小・家族経営農家の減少は死活問題。農業後継者については県やJA、ひょうご農林機構で連携し、親元就農も推進しているところ。全国的には持続可能な農業を広げていく活動も行っている。キャッチフレーズは「多様性」が入っているものが良い。中小・家族経営農家を含め多様な担い手が農業を持続していける施策をお願いしたい。

**委員** 豊かな海づくりを中心とした記載がされており、これはこれで良いが、日本海側の記載がない。日本海側にも特有の問題があるのではないか。資料4の第4の書き方として、各ビジョン項目がページの頭にくるようにした方が良い。

**委員** 農林水産業を取り巻く情勢は悪くなっている。米は輸出のチャンスがあるかもしれない。福島の問題や、ポストコロナでの外国人のオーバーツーリズム、カーボンニュートラル関係では世界的な異常高温など、情勢の変化を反映してほしい。

**委員** 基盤整備はスマート農業との関連が大事になってくるが、資料4のP12農地利用の最適化と効率的な生産基盤の確立の現状に記載があり、ここで読める。基盤整備は早期の効果発現が重要なので、そのような記載も必要。資料4のP24に特色を活かした活力ある地域づくりの推進の記載があるが、地域の問題として草刈りに関する記載があっても良いのではないか。

**委員** Jクレジットについては兵庫県独自の取組への記載があり、これで良い。資料3のP17の農福連携について、福の部分の記載は良いが、農の部分の特産品に矮小化されていないか。ノウフク・アワードの募集が8月末から始まるので、兵庫県からも積極的な応募を願いたい。答申はビジョンの改正ではないので、情勢変化をベースに記載するのは理解できるが、例えばなぜ多様な主体を入れるのかと言えば農村人口の減少が原因。情勢変化の中に、人口・エッセンシャルワーカーの減少や2024問題の記載を入れた方が良い。

**委員** 資料4のP33に「都市近郊の立地を活かした」とあるが、本県では立地を活かした強みとはどこか、もう少し具体的に説明しては。また、同じページに「次代を担う経営力の高い担い手の育成」とあり、若手農家を支援するのは分かるが、既存の担い手への支援はどうするのか。また、今後日本の人口は減少していくが、農業は持続できるかが気になる。今後日本の農業がどう変わるかを少し考えてもらえれば。

**委員** 本日いただいた意見は次の部会で検討したい。清水委員からあったように、何を強調するかを意識することは重要。資料4のP6と7の間に、例えば「今までは経済効率・集約化が重要だったがこれからは環境効率・分散が重要になってくる。ただし、集約と分散は対立するのではないというのが多様性」といった説明を入れ

ば、めざす姿がわかりやすくなるかもしれない。農業という産業としての書きぶりが中心で、食や農村地域の記載が少し弱いかもしれない。例えば、資料4のP24に、国が進める直接支払や農山漁村RMO、農村イノベーションといった記載も入れ、人口減少にともなう農村の課題も強調した方がよい。

**委員** 「ポスト・コロナ（ポスト・グローバリゼーション）の未来」の農林水産業のあるべき姿を追求するための、幅広くて細かいところまで配慮が行き届いた施策案（答申案）になっている。その特徴をよく表しているため、キャッチフレーズは案1が良い。ただし「多様性」の特徴については、本文中でしっかり強調した方がよい。また資料4のP7の「施策の推進にあたって特に留意すべき事項」からP8の「具体的方策」へのつながりが良くない。資料4のP33の第5について、もう少し補足説明が必要と考える。資料4のP7に、「有機農業」、「女性」、「消費者の育成」のような文言が必要では。

**委員** 情勢変化をどう考えていくのかが重要。女性の力を明示する必要があるのでは。また、国政への提言を入れたほうが良い。里山資源の再開発について、食と林の連携を記載しては。2024問題は切実なので、県だけではできない部分もあるが、県産農林水産物の活用は重要。地域を守るには多様な担い手（兼業農家等）の存在が重要。また、日本の農業は草刈りとの戦いであり、対策は非常に重要。今回出た意見をできるだけ取り込めるよう、部会で検討してほしい。キャッチフレーズについて、若い人が考えたほうが良い。

**委員** 40歳以下の職員から募集したらどうか。

**事務局** 企画部会で検討いただいた3案もあるので、それに若手の意見も加味して検討したい。